

## 「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究2、3」事業の進捗状況について

神谷 智（郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究2事業責任者）  
 （郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究3事業分担者）

愛知大学総合郷土研究所（郷土研）には、長年にわたって収集されてきた歴史的古文書が多数所蔵されている。仮目録をもとにして古文書の点数を数えると合計で5万点を超える。収集された古文書の多くについては仮目録がすでに作成されているが、これはあくまでも「仮目録」であり、体裁も統一されておらず、内容の再点検も必要とされている。またこの仮目録は研究所に配架して閲覧には供しているが、広く一般に公開されているものとはなっていない。

こうした状況を克服するため、形式や内容がきちんと整備された目録を作成し公開する事業を2016年度から開始した。従来の仮目録の内容を再点検して整備された「目録」を作成し、冊子目録として刊行するとともに、目録のデータベースをホームページ上で公開するというのが具体的な作業である。また、目録作成の作業や作成された目録をもとにして、古文書にかかわる研究を進めることも目的としている。

2018年度までに「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究」事業として、旧三河国渥美郡関係の文書8,567点を再点検し目録データベースの作成を進め、冊子目録を2冊刊行し、ホームページ上で公開し終わった。また2019年3月23日には豊橋校舎で、「古文書が語る豊橋・渥美一愛大郷土研所蔵文書から」と題し、この事業の意義や成果と、整理で判明した近世近代期における旧三河国渥美郡についての新たな歴史的事実を紹介する記念講演会を開催し、この事業の成果を大学内外に広く公表した。

つぎに「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究2」の事業については、2018年度から

2020年度までの3ヶ年計画で、総合郷土研究所に所蔵されている歴史的古文書のうち、2016年度から2018年度までに作成された旧三河国渥美郡を除いた、そのほかの三河地域にかかわる文書約8,100点を対象に、文書の再点検と目録データベースの作成を行い、冊子体の目録を刊行し、すでに構築されているホームページ上で公開するためのシステムに冊子目録に対応したデータベースの公開を行うことになっている。

2018年度においては、このうちの半数を超える、東三河地域（宝飯郡・八名郡・設楽郡）5,805点の古文書の内容を再点検し、目録データベースを作成し、冊子目録刊行しかつホームページ上で公開するための準備を完了した。

2019年度においては、この2018年度に再点検を終え作成された東三河地域（宝飯郡・八名郡・設楽郡）5,805点の古文書の目録データベースについて、実際の冊子目録刊行とデータベースのホームページ上での公開をおこなった。さらに西三河地域（加茂郡・碧海郡・額田郡・幡豆郡）4,516点の古文書の内容を再点検し、目録データベースを作成し、冊子目録刊行しかつホームページ上で公開するための準備を完了した。

2020年度においては、この2019年度に再点検を終え作成された西三河地域4,516点の古文書の目録データベースについて、実際の冊子目録刊行とデータベースのホームページ上での公開の作業を進めている。なお、研究成果の公表についてはこの報告書を作成している2020年11月の時点では、2020年度内に行うことを考えてはいるが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮しながら、その防止の

観点から見合わせることも含め、検討中である。

一方「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究3」の事業については、2020年度から2022年度までの3ヶ年計画で、総合郷土研究所に所蔵されている歴史的古文書のうち、三河国八名郡牛川村松坂家文書約14,000点を対象に、文書の再点検と目録データベースの作成を行い、冊子体の目録2冊を2022年度に同時刊行し、すでに構築されているホームページ上で公開するためのシステムに、冊子目録に対応したデータベースの公開を行うことになっている。なお、2021年度には経過報告として展覧会を実施、2022年度には目録刊行とともに、公開講演会および展覧会を実施し、成果の一端を公表する予定である。

2020年度においては、2020年11月の時点で、このうち約4,000点の古文書の内容について再点検を実施し、目録データベースを作成し、冊子目録の刊行およびホームページ上で公開するための準備を完了している。

以上の2つの事業のうち、冊子目録刊行作業とデータベースのホームページ上での公開の作業については、おもに荒木亮子（愛知大学文学部史学科日本史学専攻卒業・愛知大学総合郷土研究所研究員）・田中博久（中部大学大学院博士課程前期修了）が担当している。

また目録の体裁や記載内容などについて決める必要があるため、ほぼ月に一度のペースで、関係するメンバーの会議を開き協議を重ねている。この会議には荒木亮子・田中博久のほか、両事業のそれぞれの責任者である山田邦明・神谷智が参加して、話し合いをしている。